

10年前からの変化

平成26年6月13日の「育成あさくちNO2」に、当時の育成指導員の西本さん（昨年まで指導員としてお世話になりました）が、こんな文章を載せておられます。

11年前の実態が垣間見えるので一部を掲載します。

（前略）
他にも直面する課題として、高校生の喫煙の多さがあります。2学期に入り、高校生の喫煙場面に遭遇するケースが増加しました。それでも、人目もばからず、通学途中に学生服でタバコを吸いながら車の行き交う道を歩く。公園や駐車場でも吸うといった調子です。問題はここからです。喫煙行為を確認し、足下に煙るタバコがあり、他に通行人がいなくても、自ら吸ったことを「認めない。していない。吸っていない。」と否定する。あぐくの果てに逃げる。我々の権限からいうと、これ以上踏み込めない限界を感じました。「嘘をつき通し、逃げ得を許すことが非行を助長するのではないか。」この子たちの「嘘をつき通す人生が始まるのか。」と思うと残念だし釈然としないものを感じました。社会に出てつまづかないために、何ができるのだろうか。どうすればいいのか・・・。（後略）

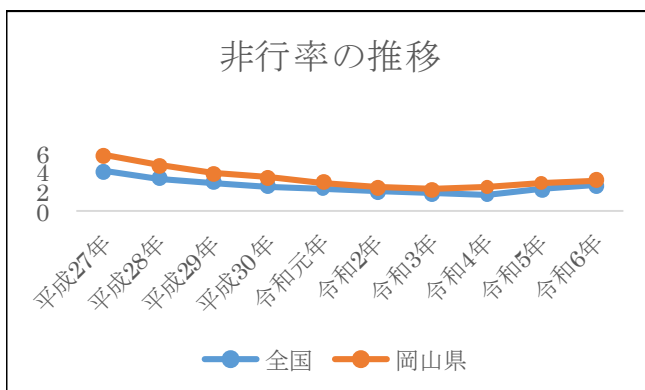
当時の実態がよく分かり、育成活動の大変さを感じることができる文章です。現在では朱書きのようなことはほとんどなく、歩きスマホなどを注意した際は、素直にやめる生徒がほとんどで、活動中に嫌な思いをすることはまずありません。

当センターの活動状況報告によると、市内の喫煙件数は令和5年度に有職者男性が1件で、令和6年度は全体で0件、本年度も現在のところ0件です。

また、声かけから逃げるような実態はなく、巡回をしていると子どもたちの方から声をかけてくれるなど、とても素直で親しみを持って接してくれます。（右の写真）



下記のグラフはここ10年の非行率の推移です。順調に減少して来ましたが、ここ3年は全国も岡山県も微増しています。その中で喫煙による県内の補導件数は、令和4年が6件、令和5年が3件、令和6年が7件という結果で、大きな特徴はなく他の補導件数と比較しても多いとはいえません。



目立って多いのは「児童買春・児童ポルノ禁止法違反」30件、「性的姿態撮影等処罰法違反」31件で、最近のニュースに象徴されている通りです。

そういった現状の中で、浅口市は良い状態が続いており、これを継続していくことが大切になりますので、今後ご協力をお願いします。

あいさつ運動

市内各小中学校のあいさつ運動に参加するようになり３年目に入りました。回数を重ねるにつけ、顔を覚えていただき、子どもたちとの距離感が近くなっているように感じます。



鴨方東小学校
4月25日



鴨方西小学校
5月20日



糸網小学校
6月25日



金光小学校・中学校
10月15日



寄島学園
10月22日

どこの学校・学園に行っても、地域の方や市長さんや教育関係者の方など各方面の方がおられ、地域と関係機関が一体となり、子どもたちを見守っていることを実感できます。

非認知能力を育てることの大切さ

先日 WOWOW で「型破りな教室」というメキシコ映画を観て、教育のあり方について改めて考えさせられました。

これはアメリカ国境近くにあるマタモロスの小学校で2011年に起きた実話を描いた作品です。麻薬と殺人が日常と化した地域で、子どもたちは常に犯罪と隣り合わせの環境で育ち、教育施設は不足し、意欲のない教員ばかりで、学力は国内最低辺。そこに新任教師ファレスが赴任し、型破りな授業で子どもたちは探求する喜びを知り、クラス全体の成績は飛躍的に上昇し、そのうち10人は全国上位0.1%に食い込んだという奇跡の物語です。彼が行ったのは、テストの成績を上げようとする他の教員とは違い、自己肯定感を育て、主体性を持たせ、好奇心を煽り、コミュニケーション力を高めるということでした。すなわち「非認知能力」を高めるということだったのです。

一方、以前勤めた学校でこんなことがありました。

やんちゃな男子が『今日は勉強頑張ったで！』としたり顔で言うので、『ほお～何をしたのかな？』と聞くと、ノートを広げて見せてくれました。そこにはたどたどしい文字で、先生の板書が書き写されていました。『すごいね！』と褒めました。心の中では「それは学習ではなくて作業だよ」とつぶやいていました。

この仕事に就き5年間市内の小中学校にお邪魔していますが、教科によっては子どもたちの「学び」はどこにあるのだろうか？！と思うこともありました。ところが最近では、子どもたちが生き生きと主体的に学んでいる授業を見ることが多くなりました。

浅口市においても非認知能力を意識して授業を進めているのではないかと推測します。

